

地域分科会・地方運輸局等における 主な取組

令和8年度 地域分科会の開催実績・主なご意見について①

分科会	日程	開催場所	主なご意見
北海道	8月24日	札幌市	【鉄道駅遠隔案内システムの文字入力対応】 鉄道無人駅の増加に伴い遠隔案内システムの利用が進んでいるが、音声中心の対応にとどまり、手話言語、筆談等による意思疎通手段が確保されていない。話せる券売機内のオペレーター隣に白画面があるのを活用し、文字入力を通して確認する方法を行ってほしい。 【バリアフリー教育や適正利用に関する広報啓発活動について】 法改正で新たにソフト事業が創設されたことは、ハード整備が十分に活かされるためにも極めて重要である。公共交通従事者の理解促進はもとより、これからの時代の担い手となる小中学生に対するバリアフリーに関する教育や、一般市民への優先席、エレベーターの適性利用に関する広報啓発活動には、今後とも力を入れるべきである。 【バリアフリー整備の評価指標について】 現在の評価は、整備率など「量的な指標」が中心となっている一方で、利用者にとって重要なのは、「整備されたか」ではなく、「実際に安全・安心に利用できるか」という点である。今後は、 ① 移動チェーン（駅・歩道・バス・タクシー・目的地）の連続性 ② 北海道特有の冬季バリアフリー（除雪・防滑・乗降場確保等） ③ UDタクシーの利用可能性（配車時間・地域格差・大型電動車椅子対応等） ④ 多目的トイレの質的評価（大型電動車椅子対応、介助スペース、介助ベッド、オストメイト設備など） ⑤ 当事者参加による現地検証や利用者評価 などについても評価指標へ加え、「量的評価」から「質的評価」へ発展させることを検討いただきたい。
東北	8月27日	仙台市	【高速バスにおけるリフト付バス車両の導入状況、貸切バス車両におけるバリアフリーバスの導入状況】 リフト付きバスの令和7年度末の数値目標は約25%であるにもかかわらず、現状値ははるかに低い値である。併せて東北県別の導入状況は全国平均よりはるかに低い。 このような状況の中で、車椅子使用者は高速バスを利用することはできるのか。リフト付きバス車両の導入に対する問題点と第4次目標における取組内容はどのようなものか。 また、貸切バス車両におけるバリアフリー車両、ノンステップバスとリフト付きバスの整備状況と、第4次目標における取組内容はどのようなものか。 【基本構想の未作成自治体】 東北の基本構想策定率は6.6%、うち市区でも16.9%と全国平均を下回っている。宮城県内でも策定済みは仙台市・松島町のみで、多賀城市をはじめ周辺自治体は未着手。基本構想がない自治体では「重点整備地区」という制度的な受け皿自体が存在せず、面的なバリアフリー化の議論の土台にすら乗れていない状況だと理解している。

令和8年度 地域分科会の開催実績・主なご意見について②

分科会	日程	開催場所	主なご意見
東北	8月27日	仙台市	【鉄道駅におけるサイン等の案内設備のさらなる普及について】 鉄軌道駅について、宮城県における整備施設の数と比較的高いが、サイン系の整備が格段に低い。ハード整備における優先度は高いので、ペースを上げた整備が求められる。
関東	6月22日	横浜市	【旅客船、航空機】 旅客船や航空機はバリアフリー化の達成率や整備率が向上しているものの、実際には利用できる範囲や設備が限られており、真に利用しやすい環境とは言い難い。単に目標値の達成をもって十分とするのではなく、障害当事者が実際に安全かつ快適に利用できるかという観点から、実用性を重視したバリアフリー基準の見直しを検討してもらいたい。 【鉄道駅の無人化について】 以前より、鉄道駅無人化の際には、ホームドアの設置や、1カ所で良いので列車の隙間と段差の解消、そして情報補償について義務化の検討を繰り返し求めている。早急に進めていただきたい。 無人駅で設置されている介助事前受付サービスは、他の路線との連携ができておらず完全ではない。時間帯によって、鉄道の利に制限や不可能があることも問題。 【小規模店舗のバリアフリー整備】 現在ある小規模店舗では、車椅子使用者が一般の人と同じように気楽に入れる店舗が限られている。新規の店舗は全て段差を設けない、ドア幅は80cm以上、車椅子やテーブルは可動式とすることが重要で必要ではないか。
北陸信越	10月16日	上越市	日程の都合上、地域分科会開催後に追記
中部	7月31日	名古屋市	【鉄道への乗車について】 車椅子ユーザーが単独で鉄道に乗車できるようになってほしい。 【点字ブロックの色の統一】 点字ブロックの色が背景色と同化しているなど、見えづらいものが増えているため、見やすい色に統一してほしい。 【バリアフリースイレへの大型ベット設置】 トイレに大型ベットの設置を推進してほしい。改修で設置するのは非効率な為、新設時に十分な余裕を持った設計を行ってほしい。
近畿	7月27日	大阪市	【障害の理解】 高齢者、障害者等の立場を理解して行動できている人の割合が84.8%とのことであるが、車の駐車場を見ると、その限りではないような気がする。

令和8年度 地域分科会の開催実績・主なご意見について③

分科会	日程	開催場所	主なご意見
近畿	7月27日	大阪市	【情報発信の整備目標】 第4次目標における「案内設備」の項目に、駅構内のモニターに表示されない情報発信はカウントされないのか？ (例：乗客のスマホ等へリアルタイムの情報発信) 乗客のスマホ等への情報発信もカウントし、推奨されれば良いのではないかな。 【バリアフリー教室の周知、広報について】 日経各紙、全国紙及び47都道府県の地方紙、雑誌等を検索できる記事データベースで「バリアフリー教室」を検索したところ、令和7年度の記事掲載は全国で12件にとどまり、近畿地方の取り組みに関する記事は確認できなかった。 バリアフリー教室の認知度向上や取組の周知を図るため、マスコミに対する積極的な広報が必要ではないか。
中国	7月23日	広島市	【啓発活動に対する、聞こえない、聞こえにくい人への配慮】 啓発・広報活動について、聞こえない、聞こえにくい人に対する配慮が見られないが、今後どのように考えられているか。 【運行情報のリアルタイム表示】 広島市内の電停やバス停で、「〇〇行きのバス（電車）、あと〇分で来ます」の電光掲示板は、遅延が苦手な人にとって見通しが持てるため、我慢して待つことができる。見てわかりやすい表示、電光掲示板を増やしてほしい。 【無人駅の対応】 無人駅も増え、駅で困った時にすぐ助けを呼べない時がある。車椅子では通りにくい所があったり、電車に乗るまで一苦労。階段や段差も多い。 【鉄道駅での接遇】 JRで下車する際に、「ゆっくりで良いので、安全に降りてください」と言われ、安心して快適に降りる事ができた。
四国	8月7日	高松市	【踏切手前の警告ブロック敷設、境界部のゴムチップ舗装の普及】 踏切道内での誘導表示の設置が義務化されているものの、踏切の手前であることを足裏で認識できる表示の設置が進んでいないことから、遮断棒の手前の視覚障害者誘導用ブロック（警告ブロック）の設置を進めてほしい。併せて、踏切内誘導表示と道路境界部との間に敷設するゴムチップ舗装の普及を進めてほしい。 【鉄道における開閉ドアのアナウンス対応】 ワンマン電車で採用されている自動音声のアナウンスは、左右どちらのドアが開くのが視覚障害者にはわからない。障害特性に応じた障害当事者への適切な情報提供という観点から、「声で知らせる」というソフト面での対策が必要。

令和8年度 地域分科会の開催実績・主なご意見について④

分科会	日程	開催場所	主なご意見
四国	8月7日	高松市	【障害者用ICOCAの相互利用について】 伊予鉄道では、障害者本人と介助者がICOCAを利用できるようになり利便性が向上したが、伊予鉄道で登録した障害者用ICOCAを他のICOCA利用可能事業者で使用した場合、障害者割引や介助者割引が適用されない状況。全国の交通事業者間で障害者割引情報を連携し、障害者用ICカードがどの事業者でも継続して利用できる仕組みの整備を求める。また、今後の導入予定や検討状況について情報提供を求める。
九州	8月25日	福岡市	【鉄道駅のエレベーター利用について】 観光客増加によりスーツケース利用者がエレベーターに行列をつくり、車椅子ユーザーが利用しづらい状況となっている。特にインバウンド利用者への啓発対策を検討してほしい。 また、駅の構造上難しい場合もあると思うが、1日の利用者数が多い駅エレベーターが1基では不足しているのではないかな。 【障害者割引制度】 精神障害者の交通運賃の割引について、100キロ等の距離の制限があり日常の利便性の向上にはつながっていないため、交通運賃が安くなるような制度にしていきたい。 【感覚過敏の対応について】 ・感覚過敏によりペットがいるところに入れないという状況があるため、ペットが乗車する車両を限定していただきたい。 ・北九州空港にカームダウンエリアがあり、駅だけでなく様々な場所に感覚過敏の方が気を休める場所があると良い。 ・駅等における方向案内の表示について、地域ごとで異なると分かりづらいため、統一されているか確認いただきたい。
沖縄	9月4日	那覇市	【リフト付きバスの導入】 沖縄県のリフト付きバスの導入目標は25%ですが、実際は3.5%にとどまっているため、高速バスを中心にリフト付きバスの導入を進めていただきたい。 【航空機内の優先エリア（配慮席）の導入】 航空機内の一部座席を、特別な配慮を必要とする旅客が利用しやすい「優先エリア（配慮席）」を導入いただきたい。 【タクシードライバーへの研修について】 タクシー会社へ予約の電話をしても、「研修を受けた運転手がない」ことを理由に断られることがあるため、現在は1日で実施している研修プログラムについて、各会社向けの短時間の基礎研修を導入するなど、受講者の拡大を図っていただきたい。

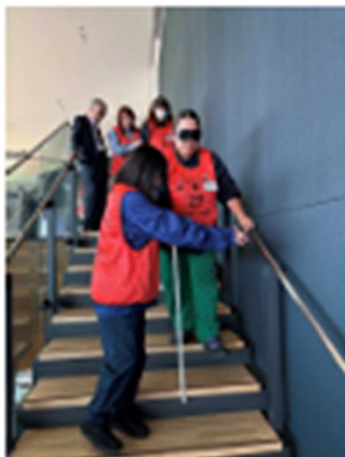
分科会	日程	当事者団体等	協力事業者等	種別	概要
北海道	8月25日	バリアフリープロモーター	－	意見交換会	・札幌第 4 合同庁舎のバリアフリー設備点検について ・地方支分部局同士の連携した取組について
東北	7月2日	東北分科会委員、 バリアフリープロモーター (山形県、福島県)	自治体 (山形県、福島県)	意見交換会	・東北における移動等円滑化の進展状況について ・東北運輸局の取組について ・意見交換
	12月予定	東北分科会委員、 バリアフリープロモーター (宮城県)	自治体 (宮城県)	意見交換会	・東北における移動等円滑化の進展状況について ・東北運輸局の取組について ・意見交換
関東	12月4日	バリアフリーネットワーク会議 (東京運輸支局) 委員	有識者、自治体、 施設設置管理者等	意見交換会	・高齢者・障害者団体等に参画いただき、管内の取組報告の紹介や、課題について意見交換を実施。
	12月4日	バリアフリーネットワーク会議 (千葉運輸支局) 委員	有識者、自治体、 施設設置管理者等	意見交換会	・高齢者・障害者団体等に参画いただき、管内の取組報告の紹介や、課題について意見交換を実施。
	12月9日	バリアフリーネットワーク会議 (山梨運輸支局) 委員	有識者、自治体、 施設設置管理者等	意見交換会	・高齢者・障害者団体等に参画いただき、管内の取組報告の紹介や、課題について意見交換を実施。
	12月11日	バリアフリーネットワーク会議 (神奈川運輸支局) 委員	有識者、自治体、 施設設置管理者等	意見交換会	・高齢者・障害者団体等に参画いただき、管内の取組報告の紹介や、課題について意見交換を実施。
北陸 信越	10月16日	分科会委員 他	自治体、 施設設置管理者等	現地視察 意見交換会	・上越妙高駅（JR東日本/えちごトキめき鉄道）において、委員が個別に視察し、分科会で意見交換。 ・JR東日本及びえちごトキめき鉄道がバリアフリーの取り組みを紹介 ・管内の自治体、障害者サポート団体、特別支援学校、老人クラブ、社会福祉士会に移動等の円滑化向上に関するアンケートを実施し、分科会で取り組むべき短期/中長期の目標を設定する。

分科会	日程	当事者団体等	協力事業者等	種別	概要
中部	7月31日	中部分科会委員 (障害者団体)	有識者、自治体	意見交換会	・障害者団体等との意見交換会
	6月19日	障害者団体	東海旅客鉄道(株)	意見交換会	・車椅子利用者との意見交換等を実施
近畿	12月2日	近畿分科会委員 (障害当事者・学識者)	管内鉄道事業者等	意見交換会	・最新のバリアフリー技術や好事例を共有する意見交換会 (仮)
	1月26日	近畿分科会委員 障害者団体	未定	意見交換会	・(詳細未定) 障害者団体等との意見交換会
中国	11月5日	高齢者・障害者団体(島根県)	バリアフリープロモーター、 自治体、施設設置管理者 (島根県)	意見交換会	・移動等円滑化評価会議 中国分科会の報告 ・意見交換及び地域のバリアフリー状況(島根県)の共有
	1月 (予定)	高齢者・障害者団体(広島県)	バリアフリープロモーター、 自治体、施設設置管理者 (広島県)	意見交換会	・移動等円滑化評価会議 中国分科会の報告 ・意見交換及び地域のバリアフリー状況(広島県)の共有
四国	令和9年 1月27日	分科会委員 障害者団体	有識者、 施設設置管理者等	意見交換会	・意見交換、地域(高知県)のバリアフリー状況と問題点の共有
九州	12月 (予定)	九州分科会委員 他	未定	現地視察 意見交換会	・バリアフリーに関する施設視察、意見交換
沖縄	9月4日	障害者団体 分科会委員	—	意見交換会	・局の取組報告(バリフリ教室等) ・委員からの報告
	未定	障害者団体 バリアフリープロモーター	(一社) 沖縄県 ハイヤー・タクシー協会	現地視察	・UDタクシーに関する接遇、乗降研修会を開催 (沖縄本島、宮古島市、石垣市)

ウポポイ、JR北海道におけるバリアフリー教室の開催

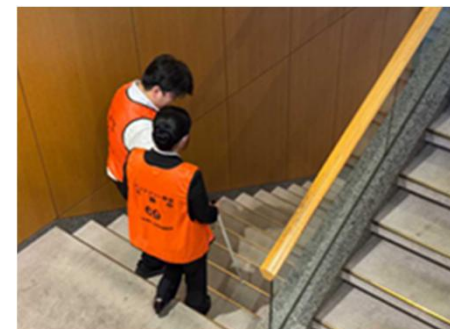
ウポポイ（民族共生象徴空間）にて、職員を対象に、バリアフリー教室を開催し、視覚障がい者・車椅子利用者疑似・介助体験を行った。

- 開催日程：令和8年6月29日（月）
- 主催：北海道運輸局（室蘭運輸支局）
- 共催：公益財団法人 アイヌ民族文化財団
- 協力：（一社）室蘭身体障害者福祉協会、（特非）キシウト湿原・登別
- 参加者：ウポポイ（民族共生象徴空間）職員 31名
- 実施概要
 - ・視覚障がい者疑似・介助体験
 - ・車椅子利用者疑似・介助体験

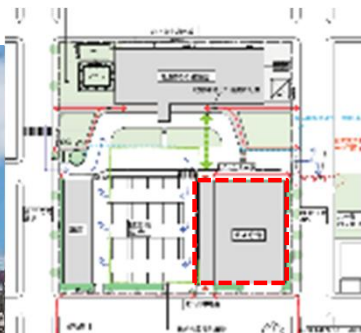


北海道旅客鉄道株式会社本社にて、職員を対象にバリアフリー教室を開催し、障がい当事者による講話の後、視覚障がい者疑似・介助体験を行った。

- 開催日程：令和8年8月4日（火）
- 主催：北海道運輸局
- 共催：北海道旅客鉄道株式会社
- 協力：（一社）日本UD観光協会
- 参加者：北海道旅客鉄道株式会社 職員13名
- 実施概要
 - ・障がい当事者の講話
 - ・視覚障がい者疑似・介助体験



◇札幌第4合同庁舎



- ・所在地：北海道札幌市中央区北2条西19丁目8番
- ・敷地面積：12,913㎡
- ・構造：鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 地上9階
- ・延べ面積：13,458㎡
- ・入居官署：北海道農政事務所、北海道運輸局

◇バリアフリーの取り組み

【札幌第4地方合同庁舎整備事業 地域連携懇談会】

- ◆ 庁舎整備に当たり、周辺居住環境や歴史、文化、景観と調和し、まちづくりに寄与し、来庁者が安全で安心して円滑かつ快適に利用できるよう、ユニバーサルデザインの視点に立った検討及び評価を行うため、学識経験者、地域の有識者、施設利用者、施設管理者等で構成する「札幌第4地方合同庁舎整備事業地域連携懇談会」を設置
- ◆ 設計段階・工事段階において計8回開催、カラーユニバーサルデザイン勉強会、サインモックアップ検証等を重ね、利用者目線の提案や意見交換を行い設計へ反映
- ◆ 主な整備内容
 - ・ユニバーサルトイレを各階に整備
 - ・授乳室、ベビーシート、着替え台を設置
 - ・カラーユニバーサルデザイン、懇談会意見を取り入れたサイン計画
 - ・車椅子用受付カウンター、充電コンセント設置

▼1階ユニバーサルトイレ(左:左勝手のトイレ、右:右勝手のトイレ) ▼男子トイレの個室内



ユニバーサルトイレは、1階には2か所、基準階には各階1か所設置(奇数階と偶数階で左右反転(右勝手・左勝手))とし、利用者の身体状況に応じたバリアフリーに配慮した。ユニバーサルトイレへの利用集中緩和のため、男女トイレ内にベビーシートや着替え台を備えた個室ブースを整備した。

▼授乳室



パーテーション、調乳用温水器、流し台、おむつ交換台を設置



▼実物大模型を用いた検証の様子



【検証時の意見】

- ・ピクトグラムのみだと、自由に入出りできるか分かりにくい。
- ・建物マップを使い、自由に入れるエリアを図で表現してはどうか。

▼庁舎完成確認時の様子



【見直した点】

- ・屋外案内板に建物マップを追加。
- ・パブリックスペースは、誰でも利用できることを明記した。

▼実物大模型を用いた検証の様子



【検証時の意見】

- ・サインは簡潔に。(何を伝えたいのか整理しては?)

▼庁舎完成確認時の様子



【見直した点】

- ・伝えたい内容を再整理。文字やピクトグラムのサイズと配置を見直した。

▼エントランス部(南側)

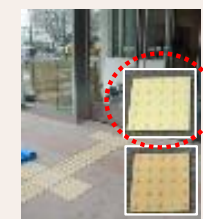


受付に車椅子用カウンター・電動車椅子用充電コンセントを整備

▼カラーユニバーサルデザイン



アプリを用いて色弱者の色の見え方を確認している様子(勉強会)



誘導用床材2色の内、見えやすい色を選定

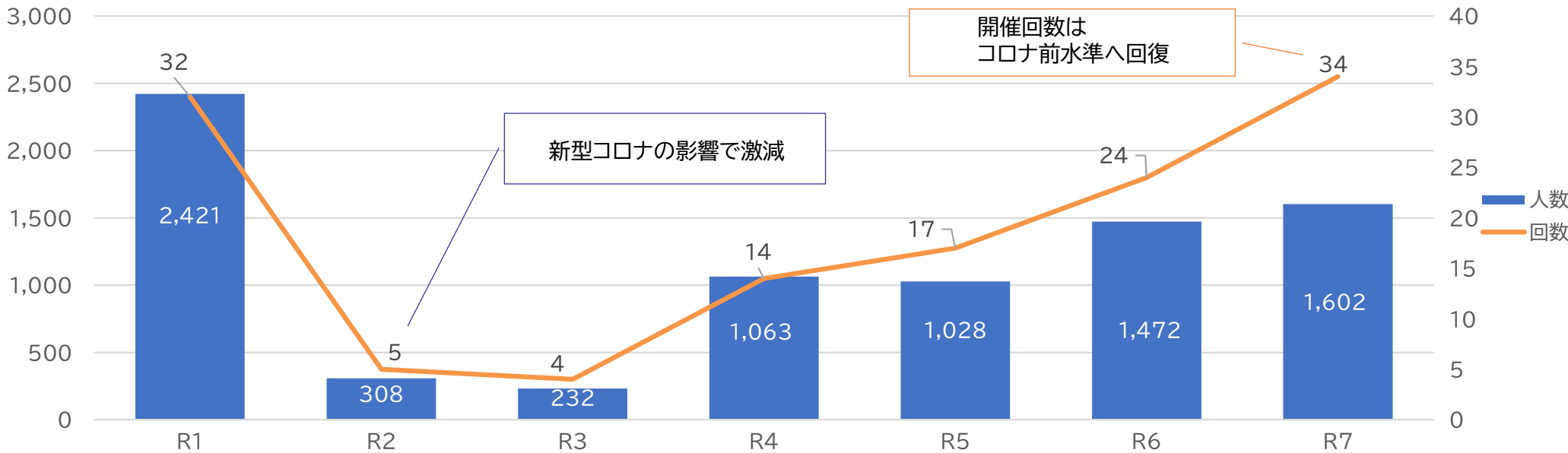


サイン等に視認性の優れた朱赤色を採用

東北運輸局では「バリアフリー教室」を開催し、疑似体験、介助体験、バリアフリー化された施設の体験等をしていただく場を提供しています。
また、地域が行っている、学校、地方公共団体、NPO、ボランティア団体、障害者団体、福祉施設など多様な主体が、お互いに連携しながら同様の取り組みや活動に対して、情報提供等の支援を行っています。

開催実績

年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
回数	32	5	4	14	17	24	34
人数	2,421	308	232	1,063	1,028	1,472	1,602



開催内訳(開催回数)

これまでは小学生中心で行っていましたが、令和7年度は局内連携を図りながら、事業者等社会人向けの取組にも力を入れました。

年度	小学生	中学生	高校生	大学生・ 専門学校生	社会人	イベント来場者	その他
R7	12	1	1	3	11	5	1
R6	12	1	1	1	6	3	0

実施主旨

車椅子使用者用駐車施設等については、本来であれば必要としない人が利用することにより、真に必要な人が利用できない状況が見られるなど、適正利用についての課題が指摘されています。
このため、国土交通省では、車椅子使用者用駐車施設等の適正利用に関するガイドラインの策定や、全国の自治体におけるパーキング・パーミット制度の導入促進、ポスター・チラシ等による広報啓発などに取り組んでいます。

実施概要

ガイドラインや各県パーキングパーミット制度の趣旨を踏まえ、東北運輸局管内の庁舎管理者あてパーキングパーミット制度登録について駐車区画運用方法の検討を依頼し、特段の事情が無い限り登録いただくよう周知を実施しております。

東北運輸局管内庁舎の登録状況（令和7年度末現在）

登録済 (9)	岩手運輸支局	岩手運輸支局 宮古庁舎	秋田運輸支局	山形運輸支局 酒田庁舎
	福島運輸支局	石巻海事事務所	仙台第四合同庁舎 (東北運輸局) (R7.7)	山形運輸支局 (R7.8)
	庄内自動車検査 登録事務所 (R7.8)			
検討中 (4)	青森運輸支局	八戸自動車検査 登録事務所	宮城運輸支局	いわき自動車 検査登録事務所

※八戸海事事務所、気仙沼海事事務所、福島運輸支局小名浜庁舎は他省庁管理

実施経緯

車椅子来庁者より、段差に前輪が引っかかってしまい、段差を乗り越えるには、介助者がいる場合であってかなりの力を要するとのこと指摘があり、改善工事を実施したものです。

工事概要

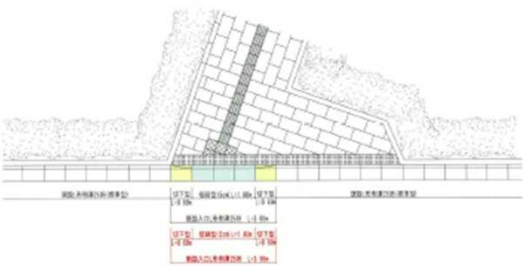


工事前の段差

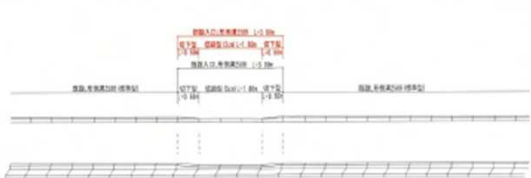
現況平面図



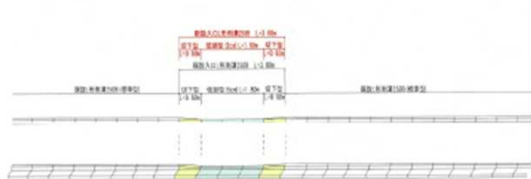
計画平面図



現況縦断面図



計画縦断面図



実施前後写真

実施前



実施後



実施経緯

持病をお持ちの来庁者より、庁舎内男性用トイレのサニタリーボックス設置についてご意見・ご要望があり、早急に対応可能な1階多目的トイレについて、取り急ぎ改善を図ったものです。

実施前後写真

<設置前>



<設置後>



今後、庁舎内全てのトイレについて、サニタリーボックスの設置を要望して参ります。

実施概要

【東北分科会】

各市町村へ移動等円滑化促進方針（マスタープラン）及びバリアフリー基本構想の作成に向けたプロモートを実施しております。

- プロモート内容
概要説明、作成メリット、全国他自治体の作成事例紹介、作成にかかる補助の説明等
- プロモート自治体
作成に前向きに自治体のほか、これまでプロモート実績が無い自治体へのプロモートを実施

プロモート先（共生社会推進課プロモート分）

日付	市町村			
4月21日	むつ市			
7月22日	金山町	新庄市	尾花沢市	
8月7日	大玉村	本宮市	二本松市	
11月12日	能代市	藤里町		
11月13日	弘前市	平川市	田舎館村	
12月2日	盛岡市	矢巾町	紫波町	
12月22日	石巻市	塩竈市		
12月23日	亘理町			
資料配布	久慈市	ほか13		
2回以上実施	むつ市	ほか1		

共生社会推進課実績 : 41自治体
各運輸支局等訪問実績 : 9自治体
令和7年度訪問実績 : 計50自治体

令和8年度 作成・見直し（予定）自治体
・大館市：移動等円滑化基本構想
・大館市：移動等円滑化促進方針
・南陽市：移動等円滑化基本構想
・福島市：移動等円滑化基本構想

【関東運輸局】バリアフリー教室スキルアップ研修（令和8年5月13日）

～関東地方整備局共同開催～

○実施の目的

- 関東運輸局の新任企画担当者（バリアフリー教室担当者）が、バリアフリー教室を実施するにあたって、「障害の社会モデルの理解」と、自身による疑似体験、介助体験を行うことで「求める配慮」や「対話の仕方」を事前に習得させる。
- 多様な障害当事者の方との直接の交流を通じて、教室運営に重要な視点を身につけてもらう。

○開催概要

- 日時
令和8年5月13日(水)10:00～16:50
- 場所
さいたま新都心合同庁舎厚生棟会議室2
- 参加者
関東運輸局職員・関東地方整備局職員 計18名
- 協力
関東地方整備局・さいたま新都心ふれあいプラザ
- プログラム
 - 開会
 - ・挨拶
 - ・概要説明等（教室の趣旨、最近の共生社会推進課の動き等）
 - 障害当事者の方による講義（自分のエピソード、それぞれの体験で感じてほしいこと）
 - ・聴覚障害者について 宮本 治之講師
 - ・車椅子使用者について 犬島 朋子講師（環境省自然環境局）
 - ・視覚障害者について 天野 亨講師
 - 体験学習
 - ・聴覚障害者体験の説明
 - ・聴覚障害者体験（自己紹介、要約筆記体験）
 - ・車椅子、白杖の使用説明
 - ・車椅子使用者体験／視覚障害者体験

○体験風景



○参加者の声～アンケートより抜粋～

- 障害当事者とコミュニケーションを取ることが重要と改めて感じました。コミュニケーションを取った際、仮に当事者に断られたとしても、「次からは声をかけるのを止めるのでは無く、暫く様子を見るとか、「たまたま声掛けが不要だったんだ」といった視点を持つことが重要であることは初めて知りました。
- 普段生活する中ではあまり気にしていない点字ブロックやスロープを使った体験を行うことで設備の重要性を理解できた。
- アイマスクをしたままの待ち時間で、まわりの音や声、白杖の感触からの情報収集に意識を集中させてから体験歩行に足を踏み出せたので有意義だった。少ない情報を頼りに集中して歩くことがとても疲れることだと認識した。サポートの方の声かけが的確でとても助かった。バリアフリー教室でも参考にさせていただきたい。

○実施の目的

- 講義及び疑似体験等を通じ、「障害の社会モデル」及び「心のバリアフリーの3つの体現ポイント」に関する理解の深化を図るため。
- 公共交通機関での体験を通じて、日常の中に存在する様々なバリアへの気づきを促し、ハード・ソフト両面からの連続的なバリアフリー化に関する理解の深化を図るため。
- 疑似体験及び介助体験を通じ、個々の状況に応じて求められる配慮の違いを理解し、適切な支援に資するコミュニケーションの重要性についての認識を深めるため。

○開催概要

- 日時
令和8年7月8日(水) 13:15~15:40
- 場所
横浜第二合同庁舎16階会議室、馬車道駅構内
- 参加者
関東運輸局職員・国土交通省職員、関東地方整備局職員、独立行政法人自動車事故対策機構職員、横浜高速鉄道株式会社職員 計33名
- 協力
横浜高速鉄道株式会社、東京都福祉局
- プログラム
 - 開会
 - ・挨拶
 - ・講義（障害の社会モデル、心のバリアフリーについて等）
 - ・動画視聴（バリアフリートイレ、障害者等用駐車区画の適正利用）
 - 体験学習
 - ・体験コースの事前説明及び車椅子、白杖の使用説明
 - ・車椅子使用者体験／視覚障害者体験（白杖体験）
 - ・駅構内のバリアフリー施設の見学
 - ・バリアフリーに係る動画視聴（体験学習の待ち時間で視聴）

○体験風景



○参加者の声～アンケートより抜粋～

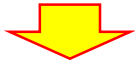
- 白杖や車椅子体験を通じて、当事者目線で物事を感じることがとても大切であることや、その中で自分が日々できることを見つけていくことが重要であるという気づきがありました。
- 車椅子体験では、少しの段差や坂道でも移動が大変であることを実感しました。また、アイマスク体験では、普段何気なく歩いている道でも不安を感じ、周囲の人の声掛けや設備を整えることの重要性を再認識しました。普段生活する中ではあまり気にしていない点字ブロックやスロープを使った体験を行うことで設備の重要性を理解できた。

第8回中部分科会の好事例・先進事例 「当事者参加の取組」について



名古屋市 瑞穂公園陸上競技場の改築

第20回アジア競技大会
第5回アジアパラ競技大会の
メイン会場へ選定
老朽化、機能不足等の課題が指摘される



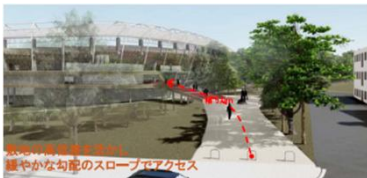
施設設計から完成までに
全7回(うち1回視察会)のUD説明会を実施



当事者の意見を取り入れた改築実施

○施設の特徴の一部

- ・車いす利用者席を約300席設置
- ・最寄駅とスタジアム3階をスロープで接続
- ・各階にバリアフリースイレを分散設置
- ・階段利用者と同じ動線でアクセス可能なスロープをメインエントランスへ設置



中部国際空港 UD総点検に基づく改修

○開港時
UD研究会を発足
(専門家・当事者団体・関係機関等)
基本設計・実施設計・施工の各フェーズ
で議論を重ね、施設が完成
(開港後UD研究会は解散)



点検・改善体制を構築できず課題が蓄積



2023年度にUD推進活動を再始動、UD総点検を実施、翌年度UD懇談会を結成

○総点検を基に行った取組の一部

- ・優先席の開発・導入
- ・遠隔案内の筐体開発
- ・スカイデッキの安全確保



静岡市 静岡鉄道柚木駅の改修

改修前後で複数回
障害者団体を含む関係者と
現地視察等を開催



スロープの終端部に
車椅子が接触する課題が指摘



改修完了前に
緩衝材を設置する対策

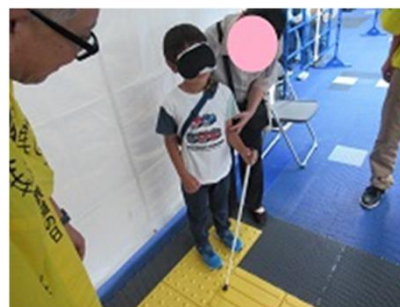
当事者からの意見（一部抜粋・表現を修正）

- ・視覚障害者にとっては図面や文字だけでは情報を十分に把握できないため、現地確認やモックアップ（試作模型）を触らせてもらうことが効果的です。実際に歩き担当者と意見交換することで、改善されたことが良かったと感じています。
- ・専門家や偏った特定の当事者のみで当事者参加を行うと問題が出る場合があります。中部国際空港のUD総点検では様々な障がいのある方が参加したのですが、こういった形で行うことが大切だと思います。

中部運輸局の主な取組

「心のバリアフリー教室」開催について（令和7年度）

開催日程：令和7年10月11日(土)
 開催場所：オアシス21銀河の広場
 主催：「鉄道の日」中部実行委員会
 協力：中部鉄道協会 他13団体
 参加者：一般 207名



「第32回「鉄道の日」記念イベント」において、イベントブースの一角を借りて、点字ブロックを使用した白杖体験を行いました。

開催日程：令和7年10月11日(土)
 開催場所：カラフルタウン岐阜
 主催：中部運輸局岐阜運輸支局、(一社)岐阜県自動車会議所、
 (独)自動車事故対策機構岐阜支所
 協力：(一社)岐阜県自動車整備振興会 他10団体
 参加者：一般 178名



「はたらくのりものと自動車安全・環境フェスタ2025」において、バス・タクシー協会の協力の下、点字ブロックの歩行体験、乗合バスの乗降体験、ユニバーサルデザインタクシーの車椅子乗車体験に取り組みました。

開催日程：令和7年10月26日(日)
 開催場所：三重県総合博物館(MieMu)
 主催：中部運輸局三重運輸支局、(一社)三重県自動車会議所、
 (一社)日本自動車連盟三重支部
 協賛：三重県 他32団体
 来場者数：一般 152名

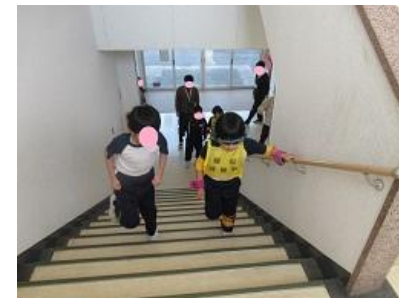


「みえ交通安全・環境フェスタ2025」において、点字ブロックを使用した白杖体験を行いました。

中部運輸局の主な取組

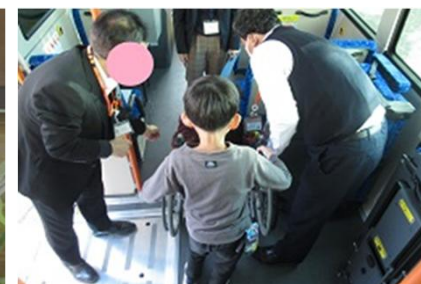
「心のバリアフリー教室」開催について（令和7年度）

開催日程：令和7年11月7日(金)
 開催場所：坂井市立兵庫小学校(福井県)
 主催：中部運輸局
 協力：社会福祉法人坂井市社会福祉協議会
 京福バス 株式会社
 参加者：小学4年生 9名



下肢障がいの方から講話をいただいた後、
 高齢者体験、車椅子体験、ノンステップバス乗降体験に取り組みました。

開催日程：令和7年12月10日(水)
 開催場所：三島市立西小学校(静岡県)
 主催：中部運輸局静岡運輸支局、三島市、
 社会福祉法人三島市社会福祉協議会
 協力：株式会社 東海バス沼津営業所
 参加者：小学4年生 79名



各グループに分かれて、車椅子体験、白杖体験、ノンステップバス乗車体験に取り組みました。初めて体験することばかりで、「当事者の苦労がわかった」などの感想がありました。

開催日程：令和8年3月7日(土)
 開催場所：イオンモール熱田
 主催：中部運輸局愛知運輸支局、愛知県
 協催：(一社)愛知県自動車会議所 他13団体
 来場者数：一般 200名(推定)



「はたらくのりものフェスタ」において、
 愛知県・名古屋タクシー協会の協力の下、白杖体験やUDタクシー乗車体験に取り組みました。

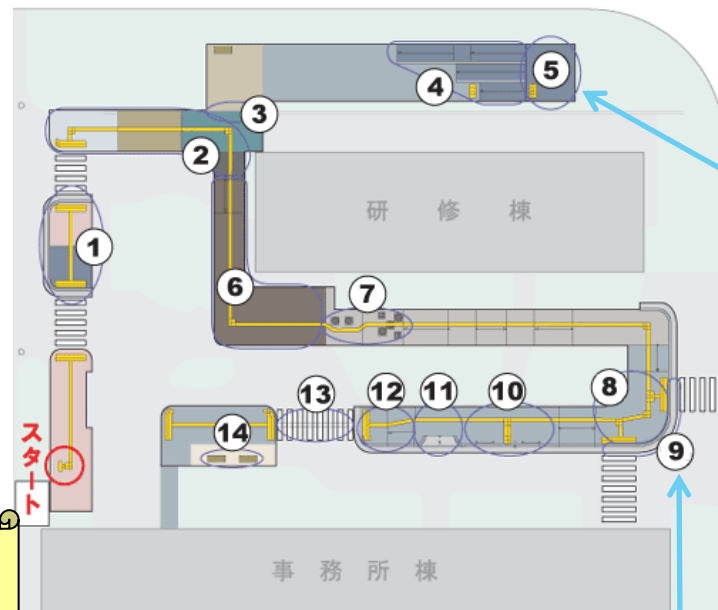
中部技術事務所におけるバリアフリー体験歩道施設 国土交通省 中部地方整備局

中部技術事務所構内には、バリアフリー体験歩道施設があり、開庁日の午前10時から12時まで、および午後2時から4時まで、体験参加の受付をしています（利用申込書の提出による事前申込みが必要です）。

中部技術事務所HP バリアフリー歩道体験【<https://www.cbr.mlit.go.jp/chugi/barrierfree/index.html>】

バリアフリー体験施設 14種類

- ①透水性舗装
- ②誘導ブロックと舗装面の輝度比
- ③グレーチング(側溝のふた)
- ④スロープ(坂路5・8・12%)
- ⑤車椅子の回転スペース
- ⑥ガタツキの少ないブロック舗装
- ⑦誘導ブロックとマンホール
- ⑧交差点付近の誘導ブロック
- ⑨歩道と車道の段差(0・1・2・3cm)
- ⑩バス停
- ⑪車両乗り入れ部
- ⑫斜めの誘導ブロック
- ⑬エスコートゾーン
- ⑭ユニバーサルデザインベンチ



車椅子体験

車椅子に乗り、坂や段差を体験します

④スロープ(坂路:5・8・12%)走行体験

縦断勾配5%(1m進むと5cm上がる)、8%(1m進むと8cm上がる)、12%(1m進むと12cm上がる)の坂を車椅子で上り下りします。



出来る限り介助者に押してもらわず、自分の力で上ってもらいます。



3cmの段差は勢いだけでは上がりません。実際に車椅子で生活している職員からコツを教してもらっています。



視覚障がい者体験

目隠しや目を閉じた状態で介助者と誘導ブロックの上を白杖を使って歩きます。



ブロックの上に自転車を置き、誘導ブロック上の障害物が視覚障がい者にとってどれほど邪魔なものか体験します。

歩道をまっすぐ歩くだけでなく、交差点や分岐、高さの違う歩車道の段差など、さまざまな体験をします。

⑨段差(0・1・2・3cm)体験

白杖・車椅子で歩車道段差0cm、1cm、2cm、3cmを体験します。



<令和7年度における体験実績>

中学生、自治体の方など、約100名の方に体験していただきました。多くの方に障がい者への理解、バリアフリーへの意識向上となる貴重な体験となったとの感想をいただきました。

- 2026年に愛知県で開催が予定されているアジア競技大会の競技会場までのアクセスルートについて、バリアフリー化の推進を図っている。
- Aichi-Nagoya2026アクセシビリティ・ガイドラインに基づき整備を行っていく。

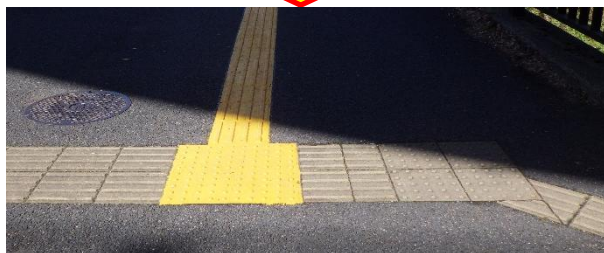
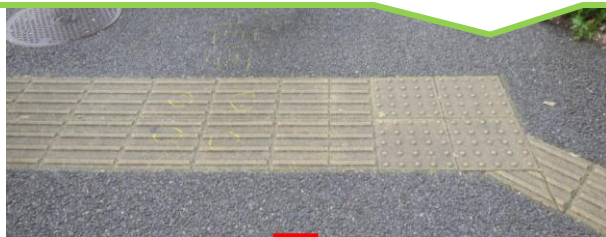
対策事例

名古屋市営地下鉄丸の内駅出口～公館東西第3号線終点部(約500m)

陸上競技(競歩)が行われる市役所周辺コースの西側に設置する観客入口までのアクセスルートを対象に、連続的に視覚障がい者誘導用ブロックを設置し、合わせてルート内の段差の解消を実施する。

視覚障がい者誘導用ブロックの設置

- アクセスルート間に視覚障がい者誘導用ブロックを整備することにより、視覚障がい者が安全に歩くことが可能。



【新御園橋交差点付近】

ルート内の段差の解消

- 車椅子等の身体障がい者や高齢者の通行の安全性向上。



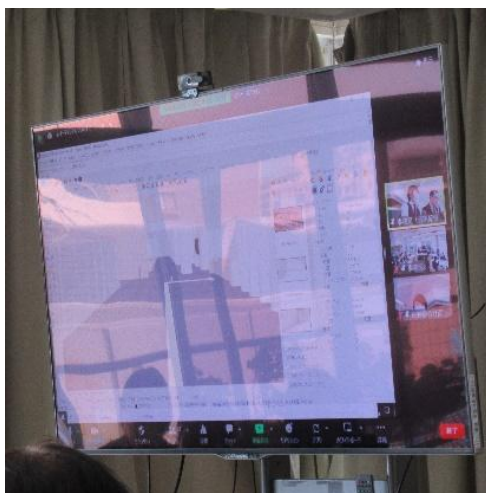
【新御園橋交差点付近】

PFI事業者より提案されたバリアフリーの取組事例

- 国の庁舎として「働きやすく使いやすい」と「気軽に訪れる施設」の二つをテーマに、設計段階のUDワークショップを開催。
- 学識経験者がアドバイザーとして、30余の障がい関係者団体に所属する計32名の方が参加。
- 主に、建物への誘導方法やトイレ周りなどの計画について図面や3Dによる画像空間を活用して説明を行い、参加者から100を超える意見を徴取。設計に反映するよう検討。
- 今後、施工段階におけるUDワークショップを開催予定。

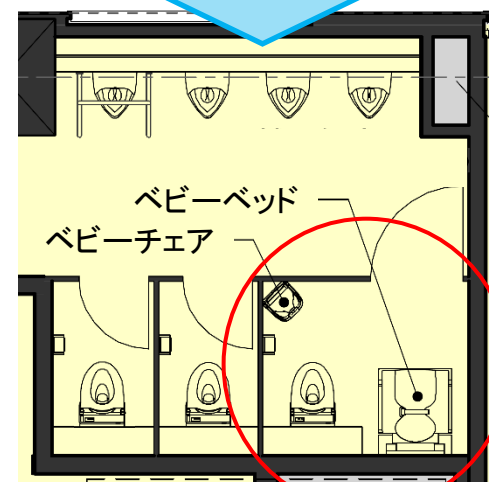
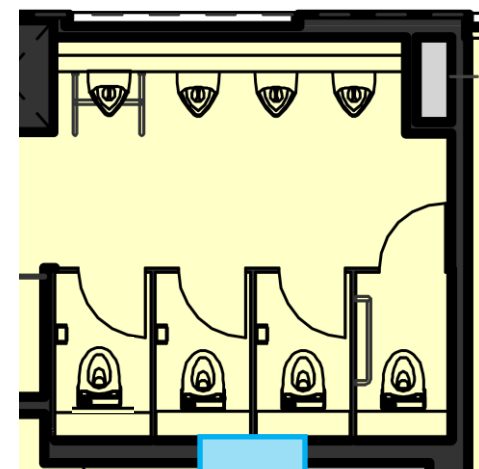


開催風景（現地参加＋Web参加）



3Dモデルを用いた説明

便所レイアウト改善案(例)



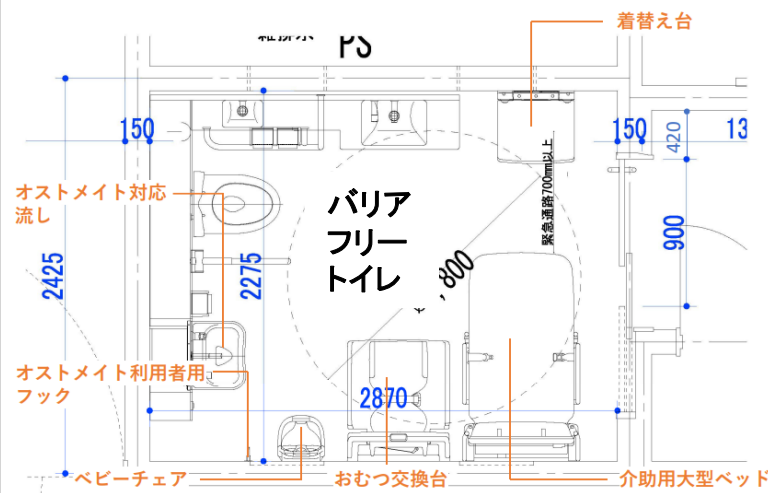
22

ベビーベッドなどをバリアフリートイレから男女トイレのブースに設置し機能を分散

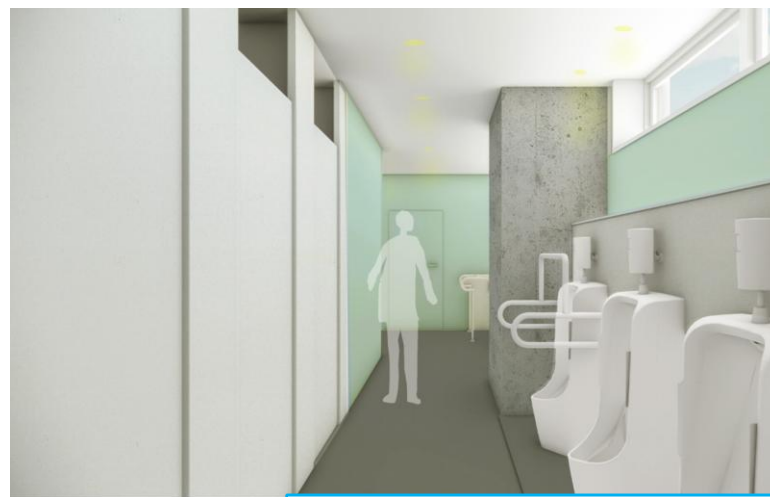
バリアフリーの取組事例(施工段階)

- 施工段階のUDワークショップを開催。
- 学識経験者がアドバイザーとして、障がい関係者団体に所属する方々が参加。
- 3Dによる画像空間を活用して説明を行い、トイレショールームにて実際の使い勝手を確認し、意見を徴収した。センサー付音声誘導、発達障害児のためのサイン、異性介助のためのカーテン、介助犬スペースを確保する等の改善を図った。
- 今後、運用1年後(R9年)におけるフォローアップを開催予定。

バリアフリースイレイアウト例



開催風景（現地参加＋Web参加）



3Dモデルを用いた説明

令和7年度 開催実績 14件（内訳：大阪2、京都3、兵庫3、奈良2、滋賀4）

開催地	場所（イベント名）	日程	対象	参加人数	主催
兵庫県 姫路市	姫路市立 船場小学校	7月3日	小学生	73名	近畿運輸局
大阪府 高槻市	高槻市立 芝谷中学校	①9月17日, ②1月16日, ③2月13日	中学生	30名	近畿運輸局
兵庫県 伊丹市	交通安全フェスタ in いたみ	9月23日	イベント来場者	17名 ※79名	(一社)兵庫県自動車整備振興会伊丹支部 伊丹市教育委員会
京都府 京都市	バスのまち京都フェスティバル	9月27日	イベント来場者	42名 ※約560名	京都市都市計画局 歩くまち京都推進室
兵庫県 姫路市	姫路市立 城西小学校	10月2日	小学生	88名	近畿運輸局
大阪府 大阪市	駅祭ティング	10月19日	イベント来場者	※488名	近畿運輸局
奈良県 香芝市	香芝市立 鎌田小学校	10月30日	小学生	30名	香芝市
滋賀県 守山市	滋賀県交通安全フェア	11月2日	イベント来場者	124名 ※約380名	(一社)滋賀県トラック協会 (一社)滋賀県タクシー協会 (一社)滋賀県バス協会
京都府 相楽郡精華町	精華町立 精華台小学校	11月5日	小学生	90名	相楽郡精華町
京都府 宇治市	京都文教大学	①11月6日, ②11月20日, ③12月12日	大学生	20名	宇治市
滋賀県 東近江市	東近江市立 湖東第一小学校	11月21日	小学生	19名	近畿運輸局
滋賀県 草津市	草津市立 草津中学校	12月11日	中学生	252名	近畿運輸局
滋賀県 大津市	大津市立 和邇小学校	1月23日	小学生	56名	近畿運輸局
奈良県 大和郡山市	大和郡山市立 矢田小学校	2月25日	小学生	72名	近畿運輸局

【参加者感想】

- ・困っている人がいたら、あいさつから始めて、「お手伝いしましょうか」と声をかけたり、心のバリアフリーに取り組みたい。
- ・家族にも伝えて、バリアフリーについてをもっと広めたい。
- ・実際に足が不自由な方の生の声を聞くことができ、子供達も目を輝かせていた。
- ・目の不自由な人は点字ブロックを使うから、そこに荷物を置かないようにしたい。
- ・もう一度車椅子バスケットをやってみたい。
- ・今度はバスケット用の車椅子を動かしながらシュートしてみたい。

※ブース出展におけるバリアフリークイズ参加者

【啓発活動の輪を広げるための取組】

- ・できる限り多くの先生にも体験してもらうよう働きかけ
- ・学校関係者向けの出前講座紹介イベントに出展
- ・バリアフリー教室の参観等、保護者の参加を促す
- ・自治体担当者に参加を促し、自治体主催でバリアフリー教室実施を働きかけ

令和7年11月21日（金）滋賀県東近江市にある湖東第一小学校において、小学4年生19名の生徒を対象にバリアフリー教室を開催しました。

車椅子体験は、児童全員が介助役と当事者役を体験し、車椅子で介助を行うときの声かけや段差の乗り越え方について学びました。そして高齢者体験では軍手や重り、視野が狭まる眼鏡をつけることで普段とは違う目の見え方や手の動かしにくさを体感しました。また、講師として前野さん（滋賀県脊髄損傷者協会理事長）をお招きしました。前野さんからは、「『お手伝いしましょうか？』という言葉にこだわらずに、まずは「こんにちは」という挨拶から始めてみませんか？挨拶をきっかけに会話ができれば、困っているときに頼みやすくなります。」というお話があり、勇気を持って最初の一声をかける大切さを教えていただきました。

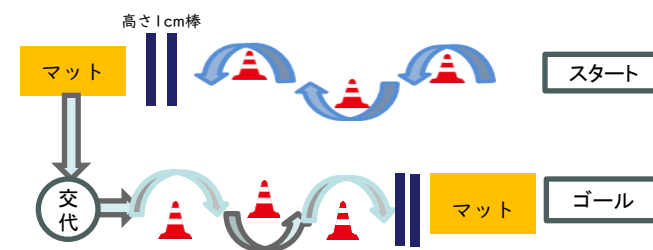
参加した生徒からは、「今後困っている人がいたら助けたい。」「これからは人に声をかけたり、心のバリアフリーを心がけて続けていきたい。」など様々な感想が寄せられました！

また、車椅子バスケット体験は特に子どもたちの心に残る経験になったようで、「もう一度車椅子バスケットをやりたい。」「バスケット用の車椅子を動かしながらシュートしてみたい！」などの感想がありました！

令和7年11月21日（金）13:50～15:25

- 挨拶（5分）
- 講義（10分）
- 高齢者体験（20分）
- 車椅子体験（20分）
- 前野さんとの交流（25分）
- まとめ（5分）

車椅子体験コース図



車椅子体験

マットを使って段差の介助を体験。前輪上げのコツなど車椅子介助の基礎を学びました。



高齢者体験

決まった金額のお札と小銭を財布から取り出します。レジでの会計に時間がかかる人がいるということに気づく体験になりました。



車椅子バスケット体験

バスケット用車椅子でシュートに挑戦！普段よりもゴールの位置が高くなるため、より腕の力を使ってボールを上げる必要があります。



前野さんとの交流

これまでの経験をお話いただいたり、生徒からの様々な質問に答えていただきました。

良い事をする時や悪い事をやめる時は「勇気」が要ります。皆さんには「勇気」を持って行動することを忘れないでほしいです。（前野さん）



バリアフリー啓発活動

バリアフリー教室

◇姫路市立 神南中学校

日時：令和7年5月19日（座学）

令和7年6月3日（体験）

人数：61名

<内容>

・車椅子使用体験・同介助体験

・視覚障害体験

・バス乗降体験

・視覚障がい当事者との交流

姫路市視覚障害者福祉協会 榎 隆子氏

テーマ「視覚障がい者における

スマートフォンの位置づけ」



旅客船を使用したバリアフリー教室

◇姫路市立 家島中学校

日時：令和7年8月29日（座学・体験）

人数：18名

<内容>

・姫路～家島航路を運航する旅客船「家島ライフ」にて
車椅子での乗下船体験

・船内にて車椅子固定作業、船内バリアフリー設備の見学

・家島港の棧橋からふれあいプラザの間で、車椅子の自走・
介助体験。

・監理部職員から心のバリアフリーについて講義



職員向けバリアフリー研修

◇神戸運輸監理部職員対象研修

日時：令和7年12月9日（第1回）

令和7年1月21日（第2回）

人数：第1回8名、第2回9名

<内容>

・講演 聴覚障がい当事者 渡部安世氏

「伝えよう、理解しよう

聞こえにくい・聞こえないについて」

・グループワーク

付箋を使った筆談のみで、以下3点を検討

①聴覚障がい者の方が困ること（バリア）は何か

②バリア解消に向けて（ハード面・ソフト面で）

何が必要か

③個人で（介助者として）できることは何か



令和8年3月13日
総合政策局共生社会政策課

第19回 国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰を実施します ～バリアフリー化に関する優れた取組みの普及に向けて～

令和8年3月19日（木）に第19回「国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰」を実施し、バリアフリー化の推進に多大な貢献が認められた取組みを表彰します。

国土交通省では、国土交通分野におけるバリアフリー化の推進に多大な貢献が認められた個人又は団体を表彰し、バリアフリー化に関する優れた取組みを広く普及・奨励することを目的として、「国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰制度」を平成19年度に創設しました。

今般、第19回目となる受賞者を決定し、下記のとおり表彰式を開催します。

1. 表彰式

(1) 記念講演会

日 時：令和8年3月19日（木）15：00～

場 所：国土交通省8階特別会議室

東京都千代田区霞が関2-1-3 中央合同庁舎3号館

内 容：・選考委員（別紙1）からの講評

・受賞団体から取組内容のプレゼンテーション

(2) 表彰状授与式

日 時：令和8年3月19日（木）16：10～

場 所：国土交通省4階幹部コーナー会議室1

東京都千代田区霞が関2-1-3 中央合同庁舎3号館

内 容：大臣より表彰状授与（予定）

2. 受賞者

・西日本旅客鉄道株式会社

（設計段階から障害当事者の意見を踏まえた新型特急車両の開発）

・関西エアポート株式会社

（多様な当事者と空港職員による建設的対話から成し遂げた関西エアポートのバリアフリー化）

※ 受賞内容の詳細は別紙2のとおりです。

※ 取材・傍聴ご希望の方は、令和8年3月17日（火）12時までに、所属、氏名、連絡先、取材・傍聴希望の旨を以下メールアドレスにご連絡ください。なお、一般の方は（1）のみ傍聴可となります。

問い合わせ先：総合政策局共生社会政策課

TEL 03-5253-8111（代表）内線 25505、25522（菅井、斉藤）

03-5253-8304（直通）

メール：hqt-kyousei★gxb.mlit.go.jp（「★」を「@」に置き換えてください）

第19回 国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰 ～受賞者の取組概要～

関西エアポート株式会社

多様な当事者と空港職員による建設的対話から成し遂げた 関西エアポートのバリアフリー化

●取組の概要

T1リノベーション工事中においてバリアフリー検討会を設置した。障害者当事者等と対話しやすい雰囲気を作りによって距離を縮めることにより、要望・課題を一緒に考え、誰もが利用しやすい施設作りに反映した。また、車椅子利用者だけでなく、聴覚障害者の方等多様な意見を取り入れ工夫がなされている。

○ 移動等円滑化評価会議近畿分科会と連携したことにより、多様な障害当事者が参画する場として具体化した。その場として、障害当事者等から意見を聞くための検討会やフォローアップ会など合計27回もの打合せの場が持たれた。

○ 緊急時に聴覚障害者が使用できる連絡手段として、エレベーター内に二次元コードを貼付し、緊急時にはチャットで連絡が取れるシステムを構築した。

○ 車椅子使用者と視覚障害者の要望の双方を反映して、エレベーターカゴ内の右側には操作ボタンを残し、左側のみ扉がカゴの端まで開くようにしている。

○ モックアップ検証の結果、一般トイレの奥行きを拡大することにより、手動車椅子で一般トイレを利用できるよう整備した。



エレベーターのカゴ



エレベーター内の二次元コード



一般トイレのサイズ拡大

近畿地方整備局 バリアフリー教室の実施

- 実際に身をもって体験することにより交通バリアフリーに対する理解を一層深め、道路空間の利便性・安全性のより一層の向上に努めていく事が重要と考え、近畿技術事務所構内に車椅子体験、白杖・アイマスク体験ができる実物大の「交通バリアフリー比較体験コース」を構築しています。
- 令和7年度は13回実施し、民間企業、府市、中学校、小学校等、延べ342名が体験。
令和8年度も5月末現在、民間企業、府県、市、中学生等延べ71名が体験。

【体験の様子(令和8年5月)】



車椅子体験



白杖・アイマスク体験

- ・日程：令和8年7月3日（金） 13：20～14：50
- ・場所：広島国際空港
- ・内容：①車椅子体験 ②バリアフリークイズ
③バリアフリー設備見学 ④展望デッキでの空港説明・見学 ⑤バリアフリーに関する講話
- ・対象：三原市本郷西小学校 4年生 29名
- ・主催：中国運輸局共生社会推進課
- ・協力：広島国際空港株式会社、三原市社会福祉協議会、三原市本郷西小学校

◆取組のポイント◆

- ・**当事者体験**と**知識の習得**の両面から学習を進めたこと
- ・児童**自らバリアフリーについて考えること**

①車椅子体験



②バリアフリークイズ



③バリアフリー設備見学



④展望デッキでの
空港説明・見学



⑤バリアフリーに関する
講話



＜バリアフリークイズ＞ ※一部抜粋 （問題）

エレベーターの中にあるかがみは、身だしなみをととのえるためにある。

○か×で答えてね。

（答え）×

エレベーターの中のかがみは、車椅子利用者の方が後ろを確認しながら安全に乗り降りできるように取り付けられています。

＜参加児童の感想＞

- ・「ヘルプマーク」や聴覚障害者を示す「耳マーク」があることを初めて知りました。
- ・困っている人やヘルプマークをつけている人に気づいたら、優しく声をかけようと思いました。
- ・バリアフリースイレにあるフラッシュライトは、火事や災害が起きた時に（聴覚障害者へ）知らせるライトだと気付きました。
- ・車椅子に乗っている人が今どんなことに困っているか考え、自分にできることを考えて行動したいです。
- ・目が見えない人、耳が聞こえない人に気づいてあげて、その人たちの生活を楽にしたいと思いました。



①バリアフリー教室・研修の開催

四国運輸局では、交通バリアフリーについての理解を深め、誰もが高齢者・障がい者等に対し、自然に快くサポートできる社会を実現するため、平成13年度から「バリアフリー教室・研修」を開催しています。

サポート方法を学ぶだけでなく、高齢者・障がい者等の困難を自らの問題として認識するきっかけとします。



【令和7年度四国運輸局バリアフリー教室開催状況】

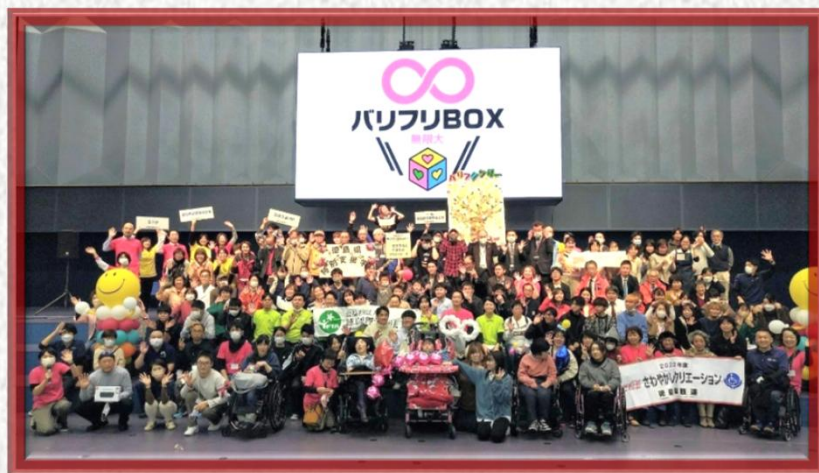
実施日	開催場所	参加者	対象
令和7年5月21日	四国運輸局	15名	四国運輸局・四国地方整備局職員
令和7年7月4日	藍住町立藍住西小学校	86名	小学生(4年生)
令和7年9月12日	西条市立楠河小学校	25名	小学生(4・5年生)
令和7年9月26日	高松市立亀阜小学校	79名	小学生(5年生)
令和7年12月12日	高知空港ターミナルビル	21名	高知空港内事業者職員
令和8年1月27日	ことでんバス株式会社	11名	乗務員

☆バリアフリー教室を体験された児童・職員の皆さんからいただいた感想（一部抜粋）☆

- 実際に車いすに乗ってみると、車いす利用者の大変さが分かりました。介助の仕方もととてもわかりやすく説明してくれて知ることができました。
- 車いすが必要とする人には何が不自由でどんな手伝いが必要なのか人それぞれだと思うので、一人ひとりに適切に対応できる知識が必要だと感じた。
- 自然災害が起きたときに自分に何ができるのか、本当に誰かのために動けるのか考えさせられるよい機会となりました。



②バリアフリー四国運輸局長表彰



徳島県肢体不自由児者父母の会連合会

会長 圓井 美貴子

各支部

【徳島支部】にんじんの会 【三好支部】あゆみ会
【小松島支部】さくらんぼ会 【阿南支部】太陽の会
【美波支部】たんぽぽの会 【吉野川支部】ふたば会
【美馬・つるぎ支部】じゃんぷの会



★取組の概要

- 平成28年より、共生社会の実現を目指し、障がいの有無に関わらず、全ての人が一緒に学んだり楽しんだりできる機会や最新の福祉機器・福祉車両や障がい児者の生活に密着した各種情報の提供の場として、イベント（「バリアフリBOX」）を開催しており、徳島県内の関係団体、民間企業や自治体などと協力して地域と一体となった取り組みを行っている。
- 当事者や専門家といっしょに地域に出向き出前授業（「出前バリアフリBOX」）を行っている。「出前バリアフリBOX」を体験した小学生等からは、「学校だけでは得られない学びと人権意識を高めることができ、自分の出来ることが何かを、みんなで考える貴重な体験となりました」などと好評を受けている。



③「障害の社会モデル」の理解促進に関するセミナー（四国地方整備局・四国運輸局共催）

日時 令和7年12月10日（水）14:00～16:00

場所 高松サポート合同庁舎南館3F 海技試験場（オンライン・対面形式開催）
内容

- ① バリアフリー法における移動等円滑化促進方針・基本構想の策定促進について
国土交通省 総合政策局 共生社会政策課
- ② 国土交通省における建築物バリアフリー化の取組について
四国地方整備局 建政部 都市・住宅整備課
- ③ 誰もが安心して笑顔で暮らせるまちづくり
NPO法人 福祉住環境ネットワークこうち 代表 笹岡 和泉 氏

出席者 四国5自治体、3団体（公共交通事業者、業界団体等）、
四国地方整備局、四国運輸局職員

「障害の社会モデル」の 理解促進に関するセミナー

共生社会推進課では、今年度も「障害の社会モデル」の理解促進に向けたセミナーを開催いたします。今年度は、当局的のリア
フープローモーターでいっしょに世界をよりよく変えていきます。世間では2006年に設立されたNPO法人福祉住環境ネット
ワークこうちが理事長を務められており、タウンモビリティやバリアフリー観光施設窓口といった活動をされる中で気づき感じ
た、世間での認知の低さや安心して暮らせるまちづくりについてお話しいただきます。
「障害の社会モデル」について初めてお聞きした方、聞いたことはある方、もっと詳しく知りたい方など、どんな方にも参加した
いただきたい内容となっています。業務に多忙のところ大変恐縮ですが、何卒参加のご検討のほどよろしくお願い申し上げます。

日時 令和7年
12月10日（水）14:50～16:00

開催
形式 オンライン開催（Microsoft Teams を利用）

申込
方法 別添申込書に記載の上、下記お問い合わせ先までご送付
下さい。（メールでも可）。
後日会議URLと資料をお送りいたします。 12月1日（月）

講演 内容
14:50～16:00（第2部※）
「障害の社会モデル」の理解促進に関するセミナー
「誰もが安心して笑顔で暮らせるまちづくり」
NPO法人福祉住環境ネットワークこうち代表 笹岡 和泉氏
※14:00～14:45は全 参加者による自由な意見交換の場です。趣意も伺います。お話しにのぞいてください。

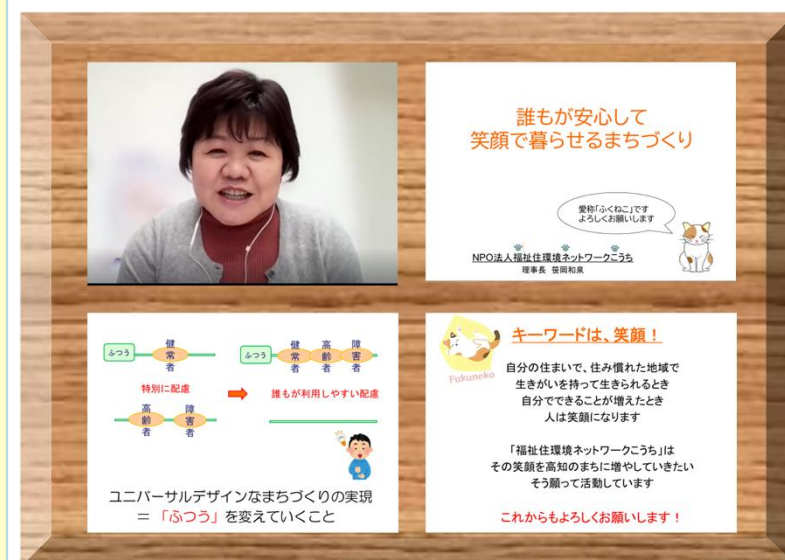
お問い合わせ先
交通政策課 共生社会推進課（担当：森・近藤）
TEL:087-802-6727
E-mail:skt-syousyousuka3012@ki.mlit.go.jp

上記セミナーでは、移動等円滑化促進方針及びバリアフリー基本構想の作成
支援に関する説明のほか、NPO法人 福祉住環境ネットワークこうちの代表
を務められる笹岡 和泉氏のご協力のもと「障害の社会モデル」の理解促進に
関するセミナーを開催いたしました。

セミナーでは、「誰もが安心して笑顔で暮らせるまちづくり」というテーマ
で、福祉住環境ネットワークこうちが取り組んでいる「福祉住宅環境整備」や
「買い物弱者・移動弱者のサポート」等を通じて、ユニバーサルデザインなま
ちづくりの実現についてご説明いただきました。

ご参加いただいた方からは、「当事者の方々が主体となってタウンモビリティ
に関わられていると知り、とても興味深かった。行政との関わり方も参考にな
った。」との声をいただきました。

今後も、障がい当事者、支援団体等のご協力のもと、「心のバリアフリー」
「障害の社会モデル」の普及啓発を行ってまいります。



誰もが安心して
笑顔で暮らせるまちづくり

愛称「ふつう」です
よろしくお願いします
NPO法人福祉住環境ネットワークこうち
理事長 笹岡和泉

キーワードは、笑顔！
自分の住まいで、住み慣れた地域で
生きがいを持って生きられるとき
自分であることが嬉しかったとき
人は笑顔になります
「福祉住環境ネットワークこうち」は
その笑顔を高のまちに増やしていきたい
そう願って活動しています
これからよろしくお願いします！

ユニバーサルデザインなまちづくりの実現
＝「ふつう」を変えていくこと

背景・目的

近年、災害の激甚化・頻発化により、甚大な被害が発生しており、災害が発生した際、職員には自発的な意思にもとづき行動するとともに、職員各自が有する能力を余すことなく発揮することが求められている。そこで、車椅子利用者の避難支援に必要な知識技術の習得により、地域における共助の担い手育成、災害時の円滑な避難行動の実現を目的として開催した。

開催概要

日時：令和8年5月27日(水) 13時30分～15時30分

場所：高松サポート合同庁舎

対象：四国運輸局職員 及び 四国地方整備局職員

受講者数：18名(内運輸局14名、整備局4名)



講師：徳島文理大学保健福祉学部
理学療法学科 柳澤 幸夫 教授

車椅子に関する基礎知識講義

講義概要

13:30～14:10(40分程度)



トピック

- ・「車椅子避難サポーター養成講座」の開設経緯について
- ・開催地の災害予測等について
- ・過去の災害による被害について
- ・「要配慮者」、「避難行動要支援者」について
- ・車椅子の基礎的知識・水平避難、垂直避難について
- ・複数人での避難支援時の負荷分析について
- ・避難支援等の補助具について

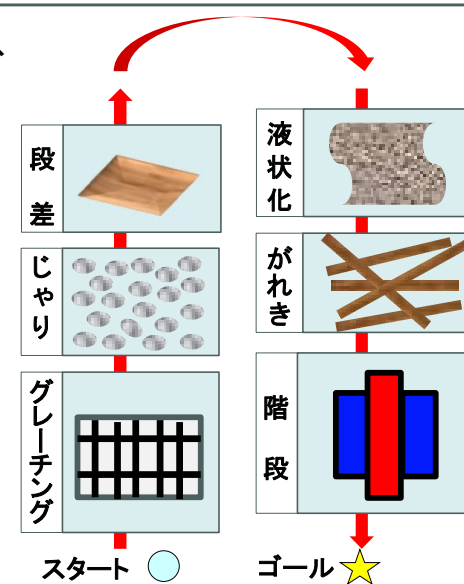
災害発生時、車椅子使用者に対して安全に避難場所まで移動支援を実施するための注意点など、状況に応じた水平避難および垂直避難の支援ポイントについて講義していただきました。

避難サポート実技演習

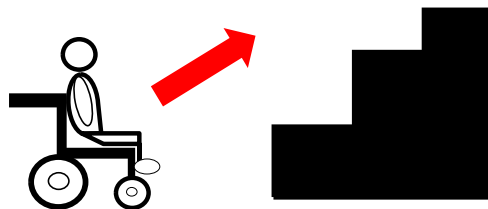
水平避難サポート



コース



垂直避難サポート



避難支援等の補助具



【九州分科会・取組事例】ONE FUKUOKA BLDG.の視察・意見交換会

令和8年3月5日、令和7年度 移動等円滑化評価会議 九州分科会における事業の一環として、福岡市が行う再開発プロジェクト「天神ビッグバン」を象徴する建物として令和7年4月に開業した『ONE FUKUOKA BLDG.』の現地視察及び意見交換会を実施。

都市再開発に伴い新たに整備された商業・ホテル・オフィス一体型複合施設について、UDや周辺道路・公共施設等との接続性をテーマに分科会委員等と助言や課題等意見交換を行うことにより、地域における産官学連携によるバリアフリーまちづくり推進の重要性の理解促進に取り組んだ。

西鉄(株)による説明



施設との接続箇所(地下・地上)



ホテル



トイレ(上)・エレベーター(下)



意見交換



【参加者】計44名

●バリアフリープロモーター兼有識者:

九州大学大学院 工学研究院 大枝分科会長、九州看護福祉大学 西島委員、大分大学 医学部 池内委員、(一社)日本福祉のまちづくり学会 岩浦委員、NPO法人 障害者自立支援センターYAH!DOみやざき 永山委員

●その他委員(代理出席者含む):

九州旅客鉄道(株)、西日本鉄道(株)、九州鉄道協会、(一社)福岡県タクシー協会、(一社)日本ホテル協会九州支部、福岡国際空港(株)、(社)福岡県盲人協会、(社)福岡県聴覚障害者協会、(公社)福岡県手をつなぐ育成会、福岡県脊髄損傷者連合会、NPO法人 福岡・翼の会、NPO法人 自立支援センターおおいた、福岡県、大分県、福岡市

●オブザーバー: 九州大学芸術工学研究院 准教授 羽野氏、

NPO法人 自立支援センターおおいた 職員

●事務局: 九州地方整備局・九州運輸局

【協力】西日本鉄道(株) ※施設管理者

【意見交換における主な発言(抜粋)】

- バリアフリールームが満室の場合でも障害のある方が宿泊できるよう、扉幅の確保、段差解消、手すり設置など、ユニバーサルデザインを取り入れた客室づくりが必要だと感じた。
- バリアフリールームには、家族や介助者のためのベッドも配置したほうが良い。
- 施設と地下街や地下鉄との接続部分について、傾斜が非常に緩やかで幅も広くスムーズに移動することができた。
- サインについて、デザイン性は良いが少し見づらい印象。突き出しのサインやサインそのものの明瞭さ、大きさなどを工夫すると安心して移動できると感じた。
- ハード面を改善することは簡単ではないため、人的支援などソフト面を充実させることも必要。
- 歩車道境界ブロックは視覚障害者にとっては境界が認識しやすくなっている一方で、車椅子利用者の中には(排水のために必要な)勾配が使いづらさに繋がる可能性もあると感じた。
- 計画段階から当事者が参加できる仕組みが保障されていると良い。
- バリアフリーは施設ごとに取り組むのではなく、施設どうしをつないでいく仕組みとして、規格として共通化しておくことが必要。

【九州分科会】バリアフリー教室による「心のバリアフリー」推進

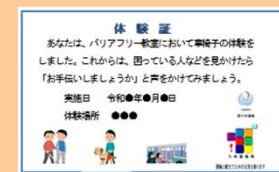
令和7年度 開催実績全10件 参加総数790名

	開催年月日	開催場所	参加者・参加人数	カリキュラム	主催	協力
1	令和7年07月04日	九州技術事務所	久留米市立小森野小学校 4年生45名	車椅子疑似・介助体験 視覚障害者疑似・介助体験 高齢者疑似体験 盲導犬学習	九州運輸局 九州地方整備局	(公財)九州盲導犬協会
2	令和7年09月11日	飯塚市立額田小学校	小学4年生37名	車椅子疑似・介助体験 視覚障害者疑似・介助体験	九州運輸局	(福)飯塚市社会福祉協議会 飯塚市
3	令和7年09月17日	福岡市立香椎小学校	小学4年生105名	車椅子疑似・介助体験 視覚障害者疑似・介助体験 バスの乗り方・車椅子介助体験	九州運輸局	福岡市 西日本鉄道(株)
4	令和7年10月08日	福岡市立舞松原小学校	小学4年生130名	車椅子疑似・介助体験 視覚障害者疑似・介助体験	九州運輸局	福岡市
5	令和7年10月23日	鳥栖市立弥生が丘小学校	小学4年生79名	車椅子疑似・介助体験 盲導犬学習	九州運輸局	(福)鳥栖市社会福祉協議会 (公財)九州盲導犬協会 九州地方整備局
6	令和7年10月29日	鹿児島新港奄美沖縄 フェリーターミナル	旅客航路事業者船員及び 運航担当者等26名	座学「旅客船事業者に求められること」 高齢者疑似・介助体験 車椅子疑似・介助体験	九州運輸局 (公財)九州運輸振興センター	鹿児島県旅客船協会 (公財)交通エコロジー・モビリティ財団 障害者の生活と権利を守るかごしまの会 鹿児島県介護実習・普及センター マルエーフェリー(株) マリックスライン(株) 鹿児島県、鹿児島市、九州地方整備局
7	令和7年11月13日	福岡市立照葉小学校	小学4年生132名	車椅子疑似・介助体験 バスの乗り方・車椅子介助体験	九州運輸局	西日本鉄道(株) 福岡市 九州地方整備局
8	令和7年11月19日	飯塚市立片島小学校	小学校4年生75名	車椅子疑似・介助体験 盲導犬学習	九州運輸局	(福)飯塚市社会福祉協議会 飯塚市 (公財)九州盲導犬協会
9	令和7年12月12日	飯塚市立飯塚東小学校	小学4年生95名	視覚障害者疑似・介助体験 バスの乗り方・車椅子介助体験	九州運輸局	西鉄バス筑豊(株) (福)飯塚市社会福祉協議会 飯塚市
10	令和7年12月19日	福岡市立城浜小学校	小学3～6年生66名	視覚障害者疑似・介助体験 盲導犬学習	九州運輸局	福岡市 (公財)九州盲導犬協会

【参加者感想】(小学4年生)

- ・目の不自由な人がいたら恥ずかしがらないで頑張って声をかけたいと思いました。
- ・体が不自由なことを体験することで、障害者の日頃の辛さが分かり、貴重な経験になりました。また、介助する体験も、もし障がい者が困っているときにどのように対応したら良いか学ぶことができました。
- ・車椅子に乗るときは思っていたより振動を感じやすく、段差の時はすごく怖かったので、車椅子を押す時にはゆっくり押してなるべく振動を感じさせないようにしたいです。

- ・「心のバリアフリー」推進の有効な取組として「バリアフリー教室」を実施。
- ・自治体、運輸関係事業者、福祉団体等と連携し「心のバリアフリー」の意識を共有。
- ・複数のカリキュラムの中から学校等の希望に添った内容とし、より理解を深めるため、終了後にアンケート等を実施し、一方向の学習・情報発信ではなく双方向の学習としている。



(参加児童に体験証を交付)